

平成 28 年 12 月 26 日発行

キャリア・アップ NEWS12月号

《経営者・管理者が読むニュースレター》

今年も残りわずかとなりました。1年間、弊社のニュースレターをご購読頂きまして誠に有り難うございました。今年1年を通して私(須山)なりの数々の思ったことを述べさせていただきたいと思います。

研修をやっても、“やりっ放し”では、身につかない!



よくあるケースですが、各企業様単位で研修を行います、「どうでした??」と聞くと、その経営者や社員さんから「良かったです」「参考になりました」と言う声は聞きますが、その後がどうも、やりっ放しになっていることが多いように思います。そのようなことがないためにも、弊社では、「受講後アンケート」を後日書いて頂きます。これは、よくある一般的な「研修の満足度」を確認するためのアンケート内容だけでなく、「どんなことに気付いたのか」「即、実践するとしたら、どんなことから実践するか」「今の職場で使えることがあるとしたら」等々を、あえて後日書いてもらっております。人は、研修中は、「なるほど」と思っても、日々の仕事が本分ですから、結局、研修中のせっかくの「気づき」や

「学び」そして、「モチベーション」は、日が経つにつれて薄らいでいき、残念ながら忘却の方向に行ってしまう。ただ、上記内容は、私共からできるアプローチであり、せめてもの対応策でしかなく、本当は会社内でも、この研修を今後、どのように活かしていくか、どこが使えるか、を皆さんで決めていき、実践に結びつける行為を行わないと、「それっきり」に必ずなっていく。

★そして、その振り返ったことは、まずは、**3週間続ける事**、そして、**それを3ヶ月継続的にやるための環境や体制をつくること**、これをしない限り、殆どの人が「それっきり」になってしまい、「無駄な経費」になってしまいます。研修を効果的にするためには、その後の「振り返り」を社内で共有することです。

渡り鳥の「V字編隊飛行」のメカニズムに感動!!

●V字編隊飛行で単独での飛行距離を約70%も伸ばせる!!



渡り鳥にとって長距離飛行は厳しい旅です。長距離を休まず飛行するためにはエネルギーを温存し、いかにして最小限のエネルギーで飛び続けることができるかが最大の課題です。そのために選んだ方法が単独飛行ではなくチームで**V字編隊飛行**をするというものだそうです。

鳥のはばたきにより翼から翼端渦(よくたんうず)という気流が発生します。この気流は斜め後方を飛ぶ鳥の飛行を助ける働きをしています。V字型の頂点、先頭の両翼から発生する気流に乗って斜め後ろ左右に二羽が続きます。さらにその後ろに次々と連なっていくことでV字型になります。

先頭のリーダーは矢面に立ち気流の恩恵は受けられませんから大きな負担がかかります。そこで先頭の鳥が疲れたら交代しているのです。前を飛ぶ鳥を励ますために後ろの鳥は声をあげて鳴き続けるともいわれています。そういった行動が相まって単独ではできない強いチームワークの成果がもたらされているのです。目的地までの長い距離、雨や風を乗り越えて飛び続けるためにはチームワークが必要なのです。

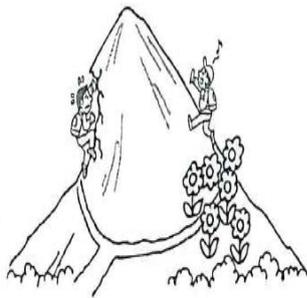
★これからの若者たちに対するチームづくり

目指す目標に向かって、この渡り鳥のような「V字編隊飛行」のようなチームづくりは、重要な要素だと思います。リーダーの単独の力でいくのか、カリスマ性で、リーダーの後ろに、一列の列になって進むのか?! しかし、リーダーのカリスマ性で進んでも、リーダーが失速すれば、後が尽きてしまいます。私が、驚いたのは、先頭の鳥が疲れたら、交代すると言う事です。先頭を拒む鳥はいなく、皆が先頭を引き受けて目指す方向に進んで行くのです。それには、目指す方向が明確であることと、基本とする軸がぶれない共通認識が必要です。それが、理念につながるのでしょう。

山は西からも東からも登れる。

自分が方向を変えれば、新しい道はいくらでも開ける。

(松下幸之助氏より)



私たちは、時には困難な仕事に直面することもあります。そこには、その仕事に介在する顧客・上司・部下・同僚という存在もあり、コミュニケーションを交わしながら進めているのですが、このコミュニケーションがうまくとれず、結局、更なる困難な状態に陥ることもあります。その時に、自分の固執したやり方や考えばかりにとどまると、その問題はいつまでも解決されず、より一層困難な状況に陥ったりもします。

しかし、少し物事の視点を変えてみたり、相手の立場に視点を移すことにより、別の方法が見えてきたりもします。一つの方法がダメなら、違った視点で考えてみる。そして、その問題を解決するには一つの方法ばかりではありません。実は、自分自身の目線・視点の方向さえ変えれば、新しい道はいくらでもあるのです。悩みとは、自分自身がつくるものであり、視点を変えればそれは悩みでなくなる可能性もあります。私にとって、今年1年の中では、この松下幸之助氏の言葉は、とても心に残る言葉となりました。 須山より



★編集後記★

日本の古い言葉に「言霊」という言葉があります。言葉には魂が宿っている、常に明るい未来、希望の将来を語り、前向きに努力を続けよう。日頃から前向きな言葉、明るい言葉を遣うよう心掛けて行きたいと思います。来年も明るい一年になるよう努めたいと思います。

花田より